

「ペテン的復帰」44年弾劾！

大学から戦争阻止・基地撤去の声をあげよう！



昨年5月18日の沖大反戦集会



デモに出発。沿道からは歓呼の声

来週月曜昼、キャンパス集会&デモへ！

戦争・改憲ねらう安倍との歴史的決戦

1972年の「5・15本土復帰」から44周年を迎える「5・15沖縄闘争」は、「再びの戦争か、戦争を止め社会を変えるか」の歴史選択をかけた重要な決戦です。全国から労働者・学生がかけつけ、韓国からも民主労総が初参加する3日間の行動に、沖縄大学から大結集しよう！

安倍政権はますます戦争にのめりこんでいます。辺野古新基地建設を一時中断してでも、7月参院選(衆参同日選)で議席を増やし、憲法改悪に手をかけようとしています。しかし、凶暴な姿は危機の裏返しです。韓国では、労働者のゼネストと総選挙での「若者の反乱」でパククネ与党が大惨敗を喫しました。アベノミクスの崩壊が誰の目にも明らかになる中、今こそ「戦争と貧困」に対する労働者・学生の怒りを爆発させ、安倍を倒すときです。

スポーツ大会で全学休講、ありえない

沖大当局は、過去3年間5月21日に開催してきた新入生歓迎スポーツ大会を突如として今年は5月16日に設定し、全学休講にしてきました。歴史的な「5・15沖縄闘争」への敵対であり、学生自治会が主催する反戦集会を「見るな。参加するな」ということです。絶対に許せません。

しかし、5月16日(月)の昼には沖大キャンパスで戦争反対、基地撤去を掲げた学生集会を行い、那覇市内デモに打って出ます！ ぜひ参加してください！

沖縄大学学生自治会

辺野古への新基地建設許すな！
国際連帯の力で朝鮮侵略戦争止めよう！

「復帰」44年5・15沖縄闘争(@沖縄)

●5月14日(土)

11時 県庁前集合 ひめゆり平和祈念資料館を見学

15時半 県庁前集合 国際通りをデモ

18時～「復帰」44年-5・14沖縄集会

@沖縄県青年会館

●5月15日(日)

午前 普天間基地と嘉手納基地を見学

正午 沖縄県民大会に参加 @新都心公園

18時 全国学生交流集会

@沖縄県青年会館

●5月16日(月)

正午 沖大キャンパス集会
→那覇市内デモ(予定)

韓国・民主労総



沖縄に来たる！

■民主労総(全国民主労働組合総連盟)は、韓国で80万人を擁する労働組合のナショナルセンター。昨年、パククネ政権の労働法制改悪に何波ものゼネストを闘う。今は、朝鮮侵略戦争切迫下の戒厳体制と対決し、6月ゼネストに向け闘いを準備している！

TEL 080-6493-7122 (法経4 赤嶺知晃)
mail okidaijichikai@gmail.com
blog <http://okidaijichikai.blogspot.jp>



ブログ

「署名をしたら人生終わる」 「学外者と一緒にビラをまいたら除籍」？！ ふざけるな！

沖大当局への怒りが噴出

大学当局による学則の勝手な改悪や新生入生に対する「自治会と関わるな」キャンペーンが度を越す中、上級生から怒りの声が上がっています。

「大学生を子ども扱いするな。ビラの内容は自分で判断する。なのに、全面禁止するとは！」

「入学式のときシラバスに(「署名に応じるな」等という)紙が入っていたのはおかしい。仲地学長は『学外者とビラをまいている学生は除籍になる可能性がある』とも言っていた。オリエンテーションでも授業でも何度もやって『なにか事件でもあったのか』と思ったけど、大学の意向としてやっているのわかってショックだった」

「署名したら人生終わるというような、大学の署名への注意がすごすぎて、逆におかしいなと。どんな署名をしている人がいるんだろうと」

「大学は学生と教員は対等なはず。そもそも、学生がいなかったら大学は成り立たない。学生が一斉に学費を払わなかったら一秒も維持できない。施設を使わせないとお金をとるな！」「駐車場で学生から料金をとるな！」

学生から人生を奪っているのは誰だ

何が「署名したら人生終わる」だ！ 4月28日の報道ステーションでは、大学へ進学した“代償”として500万円の奨学金＝借金を返すために風俗に身を投じた女性の「何のために生きているのか。借金を返す人生か」という悲痛な叫びが報じられました(写真下)。安倍であり、今の大学のあり方こそが学生の人生を奪っているんじゃないか！

国からの不当な介入を阻むための教授会権限を安倍政権が廃止し、大学を国の補助金目当ての「学長独裁経営」へと

転換させつつあることに対し、西泉教授は「反対じゃない。(反対して)大学がつぶれてもいいのか」と言っています。仲地学長は「大学には憲法は適用されない」と言ってビラまき・集会禁止を正当化しています。

結局、彼らが授業で話す憲法、彼らの対外的な安倍政権への抵抗姿勢、「学生が主役」「自由な学風」というアピールは営業上の宣伝文句でしかなく、本音は「政府におもねって少しでも金をもらう方がいい」ということです。これこそ、学問・教育の腐敗であり、戦争への道です。そして、腐敗した「地位」「金」を守るために、すべての矛盾と犠牲が集中しているのが学生です。あげく、こうしたあり方に抗議したら除籍？ 学生をなめるのもいい加減にしろ！ 学生の犠牲の上に成り立つ大学などつぶれるべきです！

団結とゼネストこそ学生の生きる道

大学と社会を変えよう。その力は労働者・学生にあります。「非常事態宣言」の下で憲法が停止し、集会やデモが禁じられている中、フランスでは労働者・学生が戒厳体制をぶち破る4度目のゼネストに立ちあがっています(写真下)。

政府が労働組合を非合法化する中でゼネストを闘っている韓国・民主労総の教育労働者は「私は、あらゆる圧迫に対して屈服せず、団結して抵抗を続ける、この瞬間こそが人間として最も美しいと考えます。お互いに激励し、力を合わせて交流を積み重ね、両国政権を追い出して、人間が人間として生きられる社会をつくろう」(全国教職員労組ソウル支部 イソンデ支部長)と訴えています。

労働者も学生も、「ルールだから」「法律だから」と理不尽に従うようなちっぽけな存在ではなく、社会を動かし、歴史をつくる誇り高い存在です。誰が次の社会を担うのか、大学の主人公なのか、今こそ学生の怒りと誇りを行動で示そう！ 5・16沖大キャンパス集会と市内デモに出よう！

